



TITLE:

表紙・はじめに・目次・執筆者一
覧・奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・はじめに・目次・執筆者一覧・奥付. シナ=チベット系諸言語の
文法現象2: 使役の諸相 2019

ISSUE DATE:

2019-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/245161>

RIGHT:

シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2

使役の諸相

Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 2
Aspects of Causative Construction

池田 巧 編
IKEDA Takumi (ed.)

はじめに

本論集は、シナ＝チベット系諸言語の使役表現について、類型構造を記述分析した14の論考を収録している。広い意味での使役にまつわる文法構造の諸特徴と、言語間の異同を明らかにすることを目標として研究会を開催し、専門的な視点から各言語を分析して討論を重ねた。本論考は、その成果を専門の異なる関連分野の研究者にも参照していただけるよう、日本語でわかりやすい叙述をするという方針のもとに編集したものである。

本論集に収める各論考のもとになった研究報告について、討議を行った研究会は、京都大学人文科学研究所（以下人文）の共同研究班「漢語と周辺諸語の類型構造論」（平成23年度～24年度、班長：池田巧）による研究活動の一環としてスタートした。この研究会は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（以下AA研）の共同研究プロジェクト「チベット＝ビルマ系言語からみた文法現象の再構築（1）：格の体系とその周辺」（平成19年度～20年度、主査：澤田英夫）および「チベット＝ビルマ系言語からみた文法現象の再構築（2）：文の特徴付けと下位分類」（平成21年度～22年度、主査：澤田英夫）を継承したものである。人文に拠点を移してからは、「TB+（プラス）研究会」と称して研究対象をやや拡張し、チベット＝ビルマ諸語を中心としながらも、周辺のシナ＝チベット系の諸言語にも範囲を広げて検討を行った。分析にあたっては、AA研の共同研究プロジェクトの精神を引継ぎ、類型構造の表面的な整理や類似の指摘に止まることなく、個別言語の内部構造の多様なメカニズムを深く観察して精密に記述することを目指した。

研究会はその後、古代漢語および現代漢語諸方言を含むシナ＝チベット系諸言語の類型構造にも範囲を拡大して分析を進め、表層の多様性と動態、基層の痕跡と継承、構造とメカニズム、その歴史的発展の方向性などを掘り下げて行く方向で研究を継続している。本論考に収録した研究会の記録を以下に掲げておこう。会議の名称は、いずれも「TB+古漢語研究会議」とした。

2014年1月24日（日） 京都大学人文科学研究所 セミナー室1（101）にて

| | |
|-------|----------------------------------|
| 松江 崇 | 古漢語における使役表現の歴史 |
| 鈴木博之 | カムチベット語梭坡[Sogpho]方言（丹巴県）における使役構文 |
| 加藤昌彦 | ポー・カレン語の使役と逆使役 |
| 本田伊早夫 | カイケ語の使役構文 |
| 高橋慶治 | キナウル語の使役 |
| 池田 巧 | ムニャ語の自他動詞と使役構文 |

2014 年 7 月 6 日（日） 京都大学人文科学研究所 セミナー室 1（101）にて

白井聡子 ギャロン語ヨチ方言における使役および逆使役の接辞について
荒川慎太郎 西夏語の動詞と使役表現
野原将揮／戸内俊介 「清濁別義」とされる現象について

2015 年 7 月 5 日（日） 京都大学人文科学研究所 セミナー室 1（101）にて

海老原志穂 アムド・チベット語の使役表現
山田大輔 上古漢語の指示詞と是の判断詞化

2015 年 3 月 14 日（日） 立教大学池袋キャンパス 7 号館にて

澤田英夫 ロンウォー語の非使役－使役動詞対
桐生和幸 メチェ語の自他動詞と使役の連続性
岩佐一枝 彝語の使役表現について

2018 年 3 月 11 日（日） 京都大学人文科学研究所 セミナー室 1（101）にて

林 範彦 チノ語悠楽方言の使役
長野泰彦 嘉戎（ギャロン）語莫拉（ボラ）方言の使役表現

本論集は先に刊行した『シナ＝チベット系諸言語の文法現象 1 名詞句の構造』に続くシリーズの第 2 冊目として編集した。研究会の開催と本論集の編集にあたっては、平成 29 年度の京都大学教育研究振興財団による研究活動推進助成「チベット＝ビルマ諸語の歴史的展開と言語類型地理論」（代表：池田巧）を受けることができた。ここに記して謝意を表したい。

また、本研究会を核として研究組織を編成し、シナ＝チベット系諸言語の歴史的展開と類型構造の地域的変容の諸相を解明すべく、科学研究費補助金を申請し採択された。今後は基盤研究（S）18H05219「シナ＝チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論」（平成 30 年度～34 年度、代表者：池田巧）により、本論集のシリーズを継続して刊行していく予定である。本論集にも基盤研究（S）による研究成果が反映されている。科研の採択を期に、研究会の名称も TB+ を改め、Sino-Tibetan Languages and Linguistics の略称により、STL 研究会と称することにした。

目 次

| | |
|--|-----------|
| はじめに | i |
| 目次 | iii |
| アムド・チベット語の使役 | 海老原志穂 1 |
| カムチベット語梭坡 [Sogpho] 方言（丹巴県）における 使役表現と構造 | 鈴木 博之 15 |
| カイケ語の使役構文 | 本田伊早夫 29 |
| メチェ語の使役構文 | 桐生 和幸 45 |
| キナウル語の使役表現 | 高橋 慶治 65 |
| 嘉戎語 莫拉方言の使役表現 | 長野 泰彦 83 |
| ダバ語における自他動詞対と使役 | 白井 聡子 99 |
| ムニャ語の自他動詞と使役構文 | 池田 巧 115 |
| 西夏語の使役について | 荒川慎太郎 135 |
| 撒尼彝語の使役表現について | 岩佐 一枝 149 |
| チノ語悠楽方言の使役 | 林 範彦 163 |
| ポー・カレン語の使役と逆使役 | 加藤 昌彦 181 |
| 古代中国語における動補型結果構文の拡張メカニズム —「他動詞＋在」結果構文を例として— | 松江 崇 205 |
| 再び甲骨文の「不」と「弗」について —使役との関わりから— | 戸内 俊介 219 |
| 執筆者一覧 | 239 |

執筆者一覧（五十音順）

荒川慎太郎（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

池田 巧（京都大学人文科学研究所）

岩佐 一枝（神戸市外国語大学：研究員）

海老原志穂（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所：研究員）

加藤 昌彦（慶應義塾大学言語文化研究所）

桐生 和幸（美作大学生活科学部）

白井 聡子（日本学術振興会／筑波大学人文社会系：特別研究員）

鈴木 博之（オスロ大学：ポストドクター研究員）

高橋 慶治（愛知県立大学外国語学部）

戸内 俊介（二松學舎大学文学部）

長野 泰彦（国立民族学博物館：名誉教授）

林 範彦（神戸市外国語大学外国語学部）

本田伊早夫（名古屋短期大学英語コミュニケーション学科）

松江 崇（京都大学人間・環境学研究科）

シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相

2019(平成 31)年 3 月 15 日発行

編 者 池田 巧

発 行 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印 刷 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入ル
